



Kふあーむの 食育体験 プログラム

メタセコイアの並木道に散り敷いた色鮮やかな落ち葉の絨毯が冬の到来を感じさせるKふあーむ。そんな冬の寒さを吹き飛ばす元気いっぱいの子もたちが昨年の12月にKふあーむを訪れました。今号では和田小学校5年生11名と本宮市内に住む4~5才児37名が行った食育に関する体験プログラムの様子を特集いたします。

農作業体験と料理教室で「食育」と「障害」の学びを深める

和田小学校5年生は授業で食育について学んでいます。子どもたちは食育や地産地消に関する理解をさらに深めるため農場を訪れました。Kふあーむでは様々な体験を通し「食」に関する理解を深めながら「障害」についても学び「共に生きる」ことについて考える機会を提供しました。

障害学習では3障害の特徴や自分の得意分野を活かして様々な分野で活躍する障害をお持ちの方々を紹介し、その後の農業体験では、Kふあーむのこだわりぬいた農業と障害をお持ちの方とのつながりについて説明を行いました。

TorrenteBiancoシェフによる料理教室ではイタリア産小麦粉と自らが洗ったネラのたまごを使い手打ちの Pasta (ストロツァプレッティ) 作りに挑戦しました。茹で上がった Pasta に Kふあーむ産しらすわ豚のミートソースを絡め、Kふあーむ自慢の味をみんなでおいしく頂きました。



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

クリスマスの思い出 Kふあーむでクッキー作りに挑戦

Kふあーむでの恒例イベントとなってまいりました食育クッキー作り体験。12月24日、25日に本宮市内に住む4~5才児がKふあーむを訪れました。

今回は独立行政法人国立青少年教育振興機構「子ども夢基金助成活動」の採択を受けた「共生事業を展開する農場での子どもの育成プログラム」の取組です。(主催：NPO法人アイ・キャン)

「自然を考える教室」では農場見学・卵洗浄・クッキー作り体験を通した食育に関する学びの機会を提供し、「生きる力を育む教室」では様々な色や形の積み木を題材とした紙芝居「へこちゃんの虹」を読み聞かせることで、多様な個性を受け入れる大切さについて子どもの目線で考える機会を提供しました。



今回の体験から、障害をお持ちの方々が「食」を通して社会とのつながりを持ち、活躍している姿を知った小学生からは、「障害を持ちながらも頑張っているんだなあ」、「すごいなあ」、「応援したい」という感想を、食育の体験では地産地消の意味を考えながら取組み、「命を頂くこと」や関わる沢山の人への「感謝のこころ」を感じながら食べる Pasta は「今までで一番美味しい Pasta でした」という感想を頂きました。また、「食」に関する一貫の体験をした4~5才児には、動物の命を頂き自分が生きているということ子ども目線で理解出来る機会の提供や、紙芝居の読み聞かせを通し「様々な色や形=個性」を尊重し仲良くする大切さを伝えることで、幼少期から多様な「個性」について感じ取り、受け入れ、共に生きる力を育む「きっかけ」を提供することが出来ました。今回の体験を通してそれぞれが感じた想いを忘れずに成長して頂きたいと願っております。

Kふあーむではつながりや幸せを感じるきっかけを発信しております。

今後もKふあーむを訪れる沢山の方々が笑顔になれる取組を行なって参ります。

共生事業に関するお問合せは共生事業チルコロ事務局 080-2801-0412 までお気軽にお問合せください。